

平成 28 年度 第 1 回大阪地方会 活動報告

平成 28 年 5 月 21 日（土）

於：大阪府済生会吹田病院 東館センターホール 2 階

平成 28 年 5 月 21 日（土）大阪府済生会吹田病院東館センターホールにて、平成 28 年度第 1 回大阪地方会を開催しました。当日は天候に恵まれ、日中歩いて来られた方には少し汗ばまれる陽気でした。そんな中、今回が初めての参加の方が多くいらっしゃり、会員 22 人、非会員 16 人の合計 38 人の方にご参加いただきましたこと、世話人一同感謝しております。

はじめに、開催病院である大阪府済生会吹田病院 院長また大阪府支部世話人会顧問の黒川正夫先生より、医師事務作業補助者は、医療にとって絶対必要である。今後の高齢化社会においては、生活習慣病、認知症、運動器疾患など、多くの人の関わりなしでは医療は成り立たない。その中で医師事務作業補助者は、医師の重要なサポーターになるであろう。そのためにも、このような勉強会に積極的に参加し、知識を深めてほしいと、心強いお言葉をいただきました。



続いて、大阪府済生会吹田病院 栄養科係長の部谷仁美先生より『入院・外来患者への栄養アプローチと医師事務作業補助者に求めること』と題してご講演いただきました。

管理栄養士としての取り組み、患者さんとのかかわるタイミング、写真画像を用いての食事の種類などわかりやすく説明いただきました。実際の活動実績は目を見張るものがあり、そこに至っている運用は工夫されたものであると感じました。講演最後に、医師事務作業補助者に求めることとして、管理栄養士に何ができるのか！何をしているのか！を理解した上で、介入できることを提案して欲しいと期待をお話くださいました。今回の診療報酬改定で、今後、高齢化社会が進み 2025 年を迎えるにあたり、栄養管理が重要との評価を受けたこともあり、医療に携わるものにとっては興味のあるお話でした。

後半は、7 名から 9 名のグループに分かれ、題材を“書類作成業務”“教育”“診療支援”“テーマフリー”としグループディスカッションを行い、グループ毎に発表いただきました。書類作成業務では期限に対する医師とのかかわりに関する課題、教育では教育を行う

ための時間確保が困難であること、そのためスタッフの適性判断にまで至らないなどの課題があがりました。そして、医師事務作業補助者と他職種との業務のすみ分け、医師ごとに医師事務作業補助者に求める業務が異なる点などは、以前より課題として挙げられていましたが、今回も多くの方から課題としてあがっていました。これらの課題を改善していくためには、医師事務作業補助者の業務を見える化し、患者さんのために医師を始めとする医療スタッフと医師事務作業補助者とでディスカッションを行い、地域医療の質向上につながるよう考えていく。そして、医師を始めとする医療スタッフとディスカッションを行うためには、医師事務作業補助者のスキルアップを図る必要があるとの発表があり、共感された方も多かったと思います。



最後に、大阪府支部の西川支部長より、4月の診療報酬改定で特定機能病院や大学病院でも算定可能となった。算定可能な病院が増えたということは、同じ志を持つ仲間が増えたということなので、医師事務作業補助者の資格化、職能団体化に向けて多くの方と力を合わせて頑張っていきたい、当研究会の活動にご賛同いただける方には是非会員になっていただきたいとの熱い思いが語られました。

医師事務作業補助の実務者の方々の更なる成長を目指して活動を行ってまいりますので、今後共ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今回の地方会にご参加いただきました皆様、準備段階からご協力いただきました全ての皆様方に、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

NPO 日本医師事務作業補助研究会
大阪府支部 副支部長 事務局
府中病院 堀田 恵